

令和 4 年 6 月 6 日現在

機関番号：14301

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2021

課題番号：20K21928

研究課題名(和文) 周縁性・植民地経験とキリスト教の再認識 - 東アジアのイギリス人宣教師に着目して

研究課題名(英文) Marginalisation, Colonial Experience, and Reimagining of Christianity: Focusing on a British Missionary in the East Asia

研究代表者

三野 和恵 (Mino, Kazue)

京都大学・教育学研究科・助教

研究者番号：40882618

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は思想・信条における排他的自己認識やその克服の可能性を歴史的に考察すべく、日本統治下台湾(1895-1945)で植民地主義への懐疑的姿勢を表明したイギリス人宣教師キャンベル・N・ムーディ(1865-1940)の思想形成を追った。具体的には、彼とその家族構成員が大英帝国における非国教会派スコットランド人として帯びた周縁性の意味を解明すべく、彼の妻で在英スコットランド人移民二世であったペギー・C・アーサー(1891-1959)の伝記的研究を進めた。また彼が属した在台イングランド長老教会の性格を捉えるため、彼が一時関与した(1901-02)マラヤにおける同教会の宣教と現地教会形成史を分析した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は一人のスコットランド人宣教師とその人的ネットワークを軸に、大英帝国におけるスコットランド(人)の位置付け - その周縁性が帝国の掲げる支配的価値への志向にも、これへの問いにも繋がりが得たこと - という世界史的問題への考察を固有名詞レベルで深めた。また、英文、和文、漢文、マレー文、及び直接の先行研究である駒込武『世界史のなかの台湾植民地支配』(2015)でも部分的にしか用いられていない台湾語の史料群を包括的に検討し、宣教師 - 改宗者間の双方向的な思想の影響関係だけでなく、巨視的にも大英帝国 - マラヤ - 台湾 - 日本を含む諸地域間の価値観、思想・信条の相互関係を立体的に再構成するための基礎的研究を進めた。

研究成果の概要(英文)： This project aims to historically explore the characters and possible resolvable of the issue of intolerance among ideological and religious others, by particularly focusing on the case of Campbell N. Moody (1865-1940), a British missionary in Japanese Colonial Taiwan (1895-1945), who came to critically question the then dominant climate of colonialism.

To clarify the context and significance of Moody's reflection, this project firstly focuses on his and his family members' marginalized background as Scottish Non-Conformists in the British society, and carried out a life history analysis on Moody's wife Peggie C. Arthur (1891-1959), who was a second-generation Scottish immigrant to England. Secondly, to understand and highlight the characters of English Presbyterian Mission (EPM) in Taiwan, to which Moody belonged, the mission works of EPM in the British Malaya, with which he tentatively worked (1901-02) and the development of local churches in this field are analysed.

研究分野：台湾キリスト教史、近代スコットランド海外宣教運動史

キーワード：日本植民地期台湾(1895-1945) 台湾基督長老教会 イングランド長老教会 キャンベル・N・ムーディ(1865-1940) ペギー・C・アーサー(1891-1959) 近代スコットランド宣教運動史

1. 研究開始当初の背景

(1) 問題関心 - キリスト教・「近代性」とアジアにおける思想史的問題

価値観、思想・信条は、個や集団の歴史経験と密接に関わり合い、アイデンティティの根幹をなす一方で、排他性や衝突をももたらし得る。本研究は、この思想・信条における排他的自他認識の問題、及びその克服の可能性を歴史的に考察することを目的に、19世紀末から20世紀のキリスト教宣教における「近代性」をめぐる議論に焦点を当てるものである。かつて植民地帝国による他民族支配を正当化し、列強と被支配者の対立関係を生み出した同概念は、欧米自由主義諸国やその政治経済体制を受容する「先進国」と、その支配的影響力に抗する排外的民族感情や宗教原理主義との分断状況の直接的な源流となり、現代社会にも深刻な影響を与え続けている。こうした背景の下で、日本を含むアジアに欧米諸国の政治・教育制度と共に到来したキリスト教は、「欧米的=正統的キリスト教」と「土着化したキリスト教」のいずれが真の「近代化」を体現するのかという議論を引き起こし、欧米からの作用と、それへの反作用を迫られる非西洋世界という一方向的で単線的な思想の影響関係のイメージの中で捉えられてきた。

(2) 着眼点と課題 - 宣教師ムーディと台湾人キリスト者にみる思想の双方向的影響関係

以上の問題を具体的に検討するため、報告者はこれまで日本植民地支配下の台湾(1895-1945)に派遣された一人のスコットランド人宣教師キャンベル・N・ムーディ(1865-1940)及び同時代の台湾人キリスト者らの相互関係に着目してきた。街頭で直接台湾人に呼びかけ、対人的な関係の中でキリスト教について語る手法を意識的に実践したムーディの宣教論の変遷過程を追うと同時に、彼と直接的に関わった台湾人信徒や聖職者らの教会自治運動の双方を分析することで、報告者はこれまでに以下の三点の事実を明らかにした。すなわち、ムーディが台湾での宣教経験を通し、日本だけではなく大英帝国を含む「文明国」による植民地支配や、「西洋の近代」と癒着したキリスト教像を批判的に問い、日本植民地支配下台湾という歴史的文脈抜きでは語り得ないキリスト教思想を形成したこと、台湾人キリスト者らが、キリスト教という外来思想を受け止め内在化の中で、「台湾人キリスト者」独自の宣教使命を持つ集団としての自己認識、及び台湾人の尊厳と政治的解放を構想・主張したこと、そしてこれらの思想的作業が両者の双方向的影響関係の中でこそ可能とされたこと、である。

一方で、以上の研究では、こうした思想的作業がなぜ他ならぬ台湾で可能とされたのかという問いや、大英帝国そのものの複雑性と、そこにおけるムーディの位置づけ - とりわけ、その政治的・宗教的中心であった「イングランド - 英国国教会」に対して、非国教会派(長老派)スコットランド人であった彼が帯びていた周縁性の意味への考察が課題として残されてきた。これらの問いに取り組むために、渡台前のムーディの思想形成、家族関係、所属教会であるスコットランド自由教会、及び所属宣教団体である在台イングランド長老教会の特徴と性格への検討がされねばならない。

2. 研究の目的

以上の認識に基づき、報告者は19世紀後半のスコットランドや大英帝国の社会史的・思想史的文脈、及びキリスト教宣教運動の動向を含む世界史的な文脈を踏まえつつ、そこにおけるムーディの事例の固有性とその背景を包括的に検討することを本研究の目的として設定した。具体的には、次の二つの作業目標を設定した。すなわち、(1) ムーディとその家族構成員、とりわけ在英スコットランド人移民二世として育ち、イングランド長老教会女性宣教会宣教師、後に同宣教会の議長として頭角を表した妻ペギー・C・アーサー(1891-1959)のライフヒストリーの再構成と検討(研究目的)、(2) 宣教組織としての在台イングランド長老教会、及び日本統治下の台湾という場の性格をより明確化するため、ムーディも一時関与した(1901-1902)同教会の英領マラヤにおける宣教事業、及び現地教会の形成史を追い、そこにおける宣教師 - 改宗者間の関係、これらの人々の植民地主義や「近代性」をめぐる立場、現地人信徒による教会自治運動の有無やその展開状況などを検討する(研究目的)。

3. 研究の方法

上記の目的を遂行するため、本研究では主に次の二つの作業に取り組むこととした。すなわち、(1) これまでの史料調査およびフィールドワークを通して収集してきたムーディ及びアーサーの家族関係や地域社会との関わりを示す国勢調査記録、出生・結婚・死亡記録、遺書、地方紙の記事、及び在マラヤ・イングランド長老教会の宣教会議録、報告書間、写真資料、プラナカン(華人系マレー人)教会の定期刊行物(英語及びマレー語)、代表的な宣教師の一人であるウィリアム・マレー(1867-1946)によるマレー語説教の原稿の調査・検討、及び(2) 関連諸地域の研究機関の図書館やアーカイブでの史資料調査とフィールドワーク。具体的には、2020年度にはNational Library of Scotland、及びMain Library, University of Edinburgh(いずれもスコットランド・エディンバラ市)にて、翌21年度にはNational Library of Malaysia(クアラルンプール)及びNational Library of Singapore(シンガポール)での史料調査を集中的に実施することを計画した。

一方で、新型コロナウイルス感染症の流行状況とその長期化の影響を受け、上記(2)の実施

が困難となり、代替策として取り組んだ国内外の研究機関図書館の相互利用サービスについても、ロックダウンや利用制限、人員削減体制の導入等により予期せぬ遅れが出た。これらの事態を受け、本研究では2020年度には大英帝国史に関わる先行研究の収集と検討に力点を置くと同時に、アーサーのライフヒストリーの概要を可能な限り再構成し、今後不明点を明らかにするために必要な史料群とその所在地を把握した。また、在マラヤ・イングランド長老教会の宣教事業に関わる史料群の整理・翻訳／翻刻作業を実施し、事実関係の確認を含む基盤的作業を進めた。2021年度には、マレーシア及びシンガポールへの出張調査が引き続き困難となることが予想されたため、本課題に関連する研究成果の国際的学術ネットワークに向けてのアウトプット、及びその準備作業に重点的に取り組んだ。また、スコットランドの渡航規制緩和を受け、11月には上記 National Library of Scotland、及び Lothian Health Service Archive (University of Edinburgh Centre for Research Collections, Main Library 内)での史料調査を実施し、アーサーの伝記的研究を進める上で鍵となる史料群を収集した。

4. 研究成果

本研究の主要な成果は、次の二つにまとめることができる。すなわち、(1)大英国内外におけるスコットランド人の社会的・空間的移動に関する検討(研究目的に対応)及び(2)マラヤにおけるイングランド長老教会の宣教と現地教会形成史への基礎的調査(研究目的に対応)。

(1) 大英国内外におけるスコットランド人の社会的・空間的移動に関する検討

先行研究の整理とムーディの事例の再検討

英語圏においては、大英帝国の海外領土(主にニュージーランド、オーストラリア、及びカナダ)へのスコットランド人の移民・移住、その経済的・文化的影響に関する研究関心が1960年代以降に高まった反面で、これらの洞察を大英帝国史の文脈に位置づける取り組みは、70年代後半の先駆的研究を経た80年代から2000年代初頭にかけての移民研究において本格化したと指摘されている(Mackenzie and Devine 2011: 4-9)。報告者は、2020年度にはこれらを含む先行研究群を包括的に収集・検討すると同時に、大英帝国から日本帝国の植民地台湾へという帝国間移動の経験がムーディの宣教論の変遷に及ぼした影響を改めて考察する論考「「仕えられるためではなく、仕えるために」: 日本植民地支配下台湾のスコットランド人宣教師とその宣教論の変遷」をまとめ、日本植民地研究会第28回全国大会共通論題報告「帝国日本の植民地に渡った人びとの意識 - 満洲・朝鮮・台湾の事例から - 」において発表した(2020年11月1日、オンライン [5. 主な発表論文等〔学会発表〕](#)を参照)。これにより、彼の宣教論の土台にあった西欧的キリスト教正統主義、及びこれを形成し発展させてきた西欧社会(大英帝国及びスコットランドを含む)の「精神」の相対的な成熟への信頼が、帝国日本の周縁に位置づけられた台湾人キリスト者らによる現状批判や、帰国後に目の当たりにした本国(帝国の中心)における社会矛盾に直面する中で揺るがされ、修正を迫られた過程を再考した。

ペギー・C・アーサーの事例研究

それでは、こうしたムーディにおける宗教的感性と彼の立場性との間には具体的にいかなる関係があったのか。非国教会派スコットランド人という宗教的・社会的背景はムーディ自身、及びその家族構成員において自覚的に認識されていたのだろうか。そうだとすればそれはこれらの人物らの婚姻関係を含む人的ネットワークの形成パターンや、宣教師など大英国内外の海外領土への進出を含む職業選択のあり方にどのように影響したのだろうか。また、逆にそうした選択によってこそ、この非国教会派スコットランド人としてのアイデンティティが形成されていたのだろうか。これらの問いに答えるため、報告者はムーディの妻ペギー・C・アーサーの事例研究に着手した。上述のように、アーサーは在英スコットランド人移民二世であり、より具体的には同国内の長老派スコットランド人のコミュニティで育った人物である。また、台湾宣教の文脈においては、初の有資格看護宣教師でもあった。これらの点、及びムーディとの婚姻、宣教師且つ医療従事者としての海外進出といった職業選択に鑑みて、大英帝国社会におけるスコットランド人の社会的・空間的移動を検討する上で示唆的なケースであると言える。

しかしながら、他の多くの女性宣教師の場合と同様、彼女の背景や足取りを示す史料は少ない。そこで、報告者は2020年度にはそれまでの史料調査とフィールドワークで収集してきた史資料群を整理・検討し、アーサーのライフヒストリーを出生及び幼少期(1891-1911)、青年期、看護師訓練及び従軍看護隊への入隊(1911-18)、女性宣教会での働き(1919-55)、及び晩年(1955-59)の四つの時期に分けて整理した。このうち、前二者を含む時期(1891-1918)に関わる史料がとりわけ不足していることから、2021年度に実施したスコットランド・エディンバラ市での史料調査では、この時期のアーサーの足取りに関わる史料群にアクセスし、以下に要約する通りに可能な限り再構成すると同時に、今後取り組むべき課題を明確化した。

・出生及び幼少期(1891-1911)

マーガレット(ペギー)・C・アーサーは1891年3月頃にジェーン・カミング・タロック(1858-1939/スコットランド・リヴィングストン出身)とミネラルウォーター会社の秘書ヒュー・ローズ・アーサー(1851-1911/スコットランド・アバディーンシャー出身)の次女としてイングランドのモドルセックス州に生まれた。母ジェーンはスコットランド公定教会の牧師の子で、エディンバラで教育を受け、イングランドに移住後は夫のヒューと共にイングランド長老教会(在英長老派スコットランド人移民が設立した教会)のセント・ジョンズウッド教会の国内宣教活動に貢献した。この時期の一家はロンドン北部・北西部(バーネット区及びブレント区)に在住した。

ペギーは上にジョン(1882-1915)、チャールズ・レノックス・タロック(1883-??)、メアリ・ヘイ(1888-??)ら三人の兄妹を持ち、このうち長兄のジョンは1901年には株式仲買人として働いており、1911年前後にはメイ・ルイズ・マケンジー(1881-??/スコットランド・パース出身)と結婚、ロンドン・バーネット区のゴードン・グリーンに居を構え、イングランド長老教会セント・ニニアンズ教会の設立に貢献した。一家は1911年6月に父親のヒューを亡くし、同年10月にはこのセント・ニニアンズ教会に籍を移している。

・青年期、看護師訓練及び従軍看護隊への入隊(1911-18)

アーサーはこの時期(a)スコットランド公定教会の国内宣教 - イングランド南東沿岸の漁港口ウストフト(Lowestoft)におけるスコットランド人漁民への宣教、(b)エディンバラ女子執事病院(the Deaconess Hospital)での看護訓練を経て(c)アレクザンドラ王妃帝国軍看護隊(Queen Alexandra's Imperial Military Nursing Service)に入隊し、第一次世界大戦期にはダートマス陸軍家族病院(Military Families Hospital)で勤務している。

(a)のロウストフト宣教は、ブリテン島の東海岸の漁港でニシン漁に携わるスコットランド人漁民らを対象にスコットランド公定教会によって行われた。1889年12月に発行された同教会の定期刊行物*The Church of Scotland Home and Foreign Mission Record*によれば、同年には収穫したニシンの調理、塩漬け、梱包などの作業に従事していた漁師の妻たちへの宣教に重点を置くため、女性宣教人員が導入されている。また、(b)エディンバラ女子執事病院は、公定教会の牧師・神学者アーチバルド・H・チャーテリス(1835-1908)提案の女性宣教人員養成計画に基づき1894年に設立された。女性執事らに1年間の看護師訓練を提供した他、正規の資格を持つ看護師となることを目指す者には3年間の訓練を施していた。イングランド長老教会出身のアーサーによる(a)及び(b)というスコットランド公定教会の関連活動・機関への関与は、両教会間の関係(人材の育成や配置における協力関係があった可能性)を考察する上で示唆的である。また(a)と(b)の間には公定教会の女性宣教の一環としての接点があった可能性も高い。これらの推測に基づき、報告者は2021年11月16日から同月25日の間にNational Library of Scotland、及びLothian Health Service Archiveで実施した史料調査で、以下二点の事実関係を明らかにした。

【エディンバラ女子執事病院におけるアーサーの訓練期間】Lothian Health Service Archive 所蔵「Deaconess Hospital (LHB12)」史料群のうち、1894年から1967年までの訓練生の名簿「Nurses Records, 1894-1967 (LHB12/22)」からアーサーの在籍期間が1913年9月2日から1917年9月9日であったことを確認した。また、卒業記録には「見習い看護師(3年間)宣教看護師となるため。臨時看護師長。1917年4月、3年資格、及びCMB(助産師)資格 - 中国[ママ]へ派遣[赤字は原典に基づく]」とのメモ書きがあり、在籍中に臨時看護師長を勤めた事実や、看護師及び助産師資格の獲得年月が判明した。

【エディンバラ女子執事病院とロウストフト宣教の関係】Lothian Health Service Archive 所蔵「Deaconess Hospital (LHB12)」史料群への包括的調査により、エディンバラ女子執事病院、及びロウストフト宣教の接点として、スコットランド公定教会の「Life and Work」委員会の存在があったことが明確化した。同委員会はエディンバラ女子執事病院を含む女子執事の訓練・任命・派遣を司り、公定教会による漁民宣教にも女子執事宣教師を派遣していたことが、1906年に発行された小冊子「Deaconess of the Church of Scotland」(LHB12/13/1 - Printed Pamphlets, 1894-1944)をはじめとする複数の印刷物から確認された。公定教会の「Life and Work」委員会を接点とする両活動のつながりについては、National Library of Scotlandでアクセスしたスコットランド公定教会女性協会の定期刊行物「The Woman's Guild Life & Work」にて、「漁民女性(fisher-girls)」への宣教とエディンバラ女子執事病院に関連する記事が同列のものとして掲載されていることから確認された。以上から、ロウストフト宣教からエディンバラ女子執事病院へというアーサーの進路選択は、この両者間にあった人的・組織的關係に基づくものであったと推測される。

一方で、この時期のアーサーの(c)アレクザンドラ王妃帝国軍看護隊員としての活動(ダートマス陸軍家族病院での勤務)に関連する情報はLothian Health Service Archive所蔵史料には見当たらず、引き続きの調査が必要である。同時に、この職業選択については、第一次世界大戦期のアーサー家に顕著に見られた戦争努力 - 長兄ジョンのゴードン・ハイランダー第八大隊(少尉)への入隊(1915年1月)と戦死(9月26日)、次兄チャールズのカナダ王立軍医療隊(軍曹)への入隊(1914年11月)及び母ジェーンの英国赤十字社への志願(1916年7月) - の文脈において、このような帝国への「貢献」が非国教会派とりわけ中産階級のスコットランド人の間でどの程度の広まりを持つ動きであったのかという問題と共に検討されねばならない。

・女性宣教会での働き(1919-55)及び晩年(1955-59)に関わる史料については、本研究課題に先立つムーディへの事例研究を通して相当数を収集した。2022年度にはこれらの成果を上記の幼少期及び青年期の調査結果と総合し、アーサーのライフヒストリーに関する基礎的研究をまとめ、『明治学院大学キリスト教研究所紀要』に投稿することを目指す。

(2) マラヤにおけるイングランド長老教会の宣教と現地教会形成史への基礎的調査

英領マラヤにおけるイングランド長老教会の宣教史に言及する主な研究としては、同教会の宣教百年史であるEdward Band, *Working His Purpose Out: The History of the English Presbyterian Mission, 1847-1947*. Taipei: Ch'eng Wen, 1972のPart Five: India, Malaya and the Home Baseにおける概略的な記述(pp. 527-546)及びRobert Hunt, Kam Hing Lee, John Roxboroughによる*Christianity in Malaysia: A Denominational History*. Petaling Jaya, Malaysia: Pelanduk Publications, 1992の第三章(pp. 75-106)をはじめとする通史的 성격のものが挙げられる。このため、本研究ではこれらの

先行研究が提示する年譜を批判的に参照しつつ、一次史料を収集・検討することで事実関係を確認する実態調査の作業に力点を置いた。

台湾の場合とは異なり、英領マラヤでは複数の宣教団体がせめぎ合うことで複雑な状況を作り出していた。また、民族・言語も比較的に入り組んでおり、イングランド長老教会は台湾人とルーツを同じくする福佬／廈門系住民、汕頭系住民、マレー語話者であるプラナカンの三つの漢族系グループへの宣教を試みていた。1901年から翌1902年までシンガポールに一時派遣されたムーディは、このうちへの宣教に従事し、現地人聖職者の任命の重要性を説くと同時に、他宣教団体の活発な働きかけに鑑みて、自らを含む長老派宣教人員の削減を提案している。一方で彼の同僚J・A・B・クック(1854-1926)は主にのグループに宣教する傍らにも働きかけていたことから、ムーディは及びを対象とする宣教人員の強化を提案している(Presbyterian Church of England Foreign Missions Committee Archives, PCE/FMC Series I, Box 50, file 5)。これを受けてか、1902年には上述のウィリアム・マレーがへの宣教師として任命されている。

上記の宣教団体側の認識と対応に関わる記述を踏まえ、本研究はイングランド長老教会による現地教会の設置状況、及びこれらの教会への現地人聖職者の配置状況への包括的調査を実施した。具体的には、これまでの史料調査で収集した史料群に加え、2021年度にアクセスした京都橘大学図書館所蔵 Presbyterian Church of England Foreign Missions Archives に収録される *Mission to the Chinese: Singapore, Johore and Muar* や *Year Book of the Presbyterian Church, Singapore* を含む統計資料群を調査した。これらは1899年から1931年までの間に在マラヤ・イングランド長老教会が設置あるいは巡回・牧会した17の教会及び宣教拠点の名称、信徒数、派遣聖職者(海外宣教師、現地人牧師・伝道師、書籍販売員及びバイブル・ウーマン)を記録・報告する小冊子である。これにより、宣教拠点数及び信徒数に着目すると、同ミッションが全体としての汕頭系住民への宣教に力点を置いていたことがわかる(平均して4つの拠点に約200名の信徒を有した。これに対し、の福佬／廈門系住民の教会及び宣教拠点は平均して2つの拠点に約90名の信徒を有した)。一方で、各教会の会衆らが自らの献金で牧師を雇用する財政的自治能力の尺度である現地人聖職者の叙任状況に焦点を当てると、の教会及び宣教拠点では早くも1899年には1名の、1919年からは2名、翌20年からは3名の現地人牧師が任命され、シンガポール島タンジョンパガル、及びムアル市ジャラン・アブドゥラーでの牧会に携わっていたことが確認される。一方で、では1904年にシンガポール島プキティマへの1名の叙任が確認されるものの、同拠点は1912年までのいずれかの時点で無牧となり、新たに2名が叙任された1929年までの間、イングランド長老教会の雇用員である現地人伝道師が中心となって運営された。また、のプラナカンの教会及び宣教拠点は終始シンガポール島のプリンセップ・ストリート教会に一極化され、信徒数も平均約40名に止まった。現地人聖職者及び伝道師の任命状況が確認されない一方で、複数の海外及び現地人ボランティアによる奉仕活動や、宣教師マレーによる青年会・女子青年会・読書会などの礼拝外活動への深い関与の形跡が確認される。

以上の基礎的調査により、在マラヤ・イングランド長老教会によって設置された教会及び宣教拠点において、1920年代から30年代の台湾において目指されたような教会自治運動・宣教団体からの財政的自立を実現することで現地人牧師の叙任を推進し、教会運営上の自治を実現するに類似した動きが観察されるのは、福佬／廈門系住民の教会及び宣教拠点においてのみであることが明らかとなった。において同様の試みがなされたのかどうか、またどのような経緯でとは異なる展開を見たのが今後明らかにされねばならない。同時に、現地人聖職者叙任の推進ではなく、信徒によるボランティアな奉仕による教会運営を中心としたのプリンセップ・ストリート教会へのさらなる調査が必要であると考えられる。同教会は上記の宣教師マレーによる礼拝外活動の他、英文及びマレー語による教会定期刊行物 *Prinsep Street Church Messenger* (1908年創刊)による現地人教会人士・傑出した植民地エリートであった Song Ong Siang (宋旺相/宋鴻祥, 1871-1941)を含むの投稿活動などの教育的実践、及びこれによる教会リーダーの養成、あるいは教会リーダー意識の形成・表明がなされていたと考えられる。この仮定を検証することで、これらの活動に参加した現地人信徒らの中に、大英帝國的「近代性」への志向、ないしこれを援用することによる自治への志向があったのかという問題に取り組みねばならない。以上に基づき、報告者は現時点までに入手している *Prinsep Street Church Messenger* (1908-1940) のマレー語記事の英訳作業に着手している。また、宣教師マレーによる読書会の手稿史料、私信、及びマレー語説教集の翻訳・翻刻作業を進めている。これらの作業に基づき、2023年度には英領マラヤにおけるイングランド長老教会の宣教事業、及び現地教会の形成史への考察をまとめ、キリスト教史学会にて報告し、同年『キリスト教史学』に投稿することを目指す。

(3) その他の成果 - 英文による論考の発表と国際的な学術交流への参加

本研究を国際的な学術ネットワークに開かれたものとし、さらなる議論に参加するため、本研究課題に関連する論考の発表(英語による国際学会での報告、及び英文共著の執筆 **5. 主な発表論文等【学会発表】・【図書】**を参照)や、本研究の土台となった拙著(2017年)の英訳作業にも力を入れた(原稿の完成後には Brill から刊行予定)。これらの活動を通して出会った研究者らとパネルを組み、2022年8月には British Association for Chinese Studies 大会にて報告予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 三野和恵	4. 巻 第19号第1集
2. 論文標題 「失敗」した台湾での宣教とイエスの人格からの乖離 あるスコットランド人宣教師の内省(1865-1938年)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア・キリスト教・多元性	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/260973	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 三野和恵
2. 発表標題 「仕えられるためではなく、仕えるために」：日本植民地支配下台湾のスコットランド人宣教師とその宣教論の変遷
3. 学会等名 日本植民地研究会 第28回全国研究大会 共通論題報告「帝国日本の植民地に渡った人びとの意識 満洲・朝鮮・台湾の事例から」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kazue Mino
2. 発表標題 A Taiwanese Intellectual's Struggle Against Ethnocentrism Under Japanese Colonial Rule: Lim Bo-seng's Theological Discussion on the Church Periodical Tai-oan Kau-hoe Kong-po, 1932-33
3. 学会等名 Yale-Edinburgh Conference 2021: Oral, Print, and Digital Culture in World Christianity and the History of Mission (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Renata Vinci, Giulia Falato, Elizabeth Smithrosser, Mariia Guleva, and Kazue Mino
2. 発表標題 Virtuous Children and Where to Find Them: Education and Representations of Young People in Chinese Sources Between Tradition and Modernity
3. 学会等名 Association for Asian Studies Annual Conference March 24-27, 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Jieun Kiaer, Alessandro Bianchi, Giulia Falato, Pia Jolliffe, Kazue Mino, and Kyungmin Yu	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 130
3. 書名 Missionary Translators: Translations of Christian Texts in East Asia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------